

いたばしECOフェスタ2024 ユース環境活動発表会

2024年2月3日(土)
板橋区立エコポリスセンターで
開催されました

主催／ユース環境活動発表会サポーターチーム
協賛／東京都板橋区・東京都板橋区教育委員会
NPO法人センスオブアース
協力／板橋区立エコポリスセンター

前半の部(保育園・小学校)と後半の部(中学校・高等学校・大学校)で各6校が、地域・学校の生物多様性と在来種を守る取り組みや、地域の環境保全、循環できる社会をめざした学校でできる野菜作りの活動などを、生き生きと発表しました。



板橋区立エコポリスセンター
保科整館長のご挨拶

発表優秀賞2校

前半の部
板橋区立三園小学校
後半の部
板橋区立西台中学校
環境科学部



左から4人三園小学校、右から3人西台中学校、のみなさん

主催したサポーターチームの学生、青年のみなさんが、あいさつ・司会などを担当し、発表者の思いに、共感しながら生き生きと進行しました。



宮本様… 多くの世代がきています。どの発表もそれぞれの最大限のことに取り組まれている
下田様… 印象的なのはみんな地域を意識してやっている。見続けることが大事

講師

東京家政大学
家政学部
環境教育学科長
教授 宮本康司様
国立博物館
付属自然教育園
主任 下田彰子様



全12団体の発表紹介



前半の部1 ほっぺるランド成増 (保育園)

「赤ちゃんの未来まで豊かな地球であるように」自然とのふれあいを「わかめプロジェクト」などで工夫した保育活動、幼児も体験する牛乳パックを洗い乾かすリサイクル、親子でアリ探し、影あそびなど多彩な活動を展開

SOE NEWS

No.203

2024年

3月



センスオブアース

市民による自然共生

パンゲア

平成27年度地球温暖化防止活動
環境大臣表彰受賞団体



前半の部2

板橋区立板橋第二小学校「自然溢れる板二小」

ユネスコスクール加盟校、子ども環境大使。ビオトープ保全活動・人間性を身に着けるためにビオトープを作った。環境委員会が管理。季節の俳句や自然発見カード、タブレットによる観察記録等の全校の取り組み。各学年毎の環境学習—1年：自然観察のカードづくり、5年：SDGsって私たちにできる？ 残菜の土づくり、6年：身の回りのもったいない！



前半の部3

板橋区立板橋第七小学校「板七環境プロジェクト」

緑のカーテンの蒸散作用で「涼しさを保つ仕組み」を次へ学び送り。緑の羽がもらえる緑の募金を 13,226 円集めた。5年：SDGsを全学年へ伝えた。地域ごみ拾い、タバコ108本・カン54個を拾う。6年：板七小のロゴを作成して5年生が投票、手紙に貼ると板二小だ！、と分かりやすい。地域の人とも一緒に、自然を大切にしよう。



前半の部4

板橋区立高島第六小学校「復活！ビオトープ」

どんなビオトープにするか、話し合った。ザリガニが多く、在来種の大切さも知った。手作業で泥をすくった。創立20周年で保護者の支援を受け、改修工事。「生き物にとって最高の環境に」クロメダカ・ヌマエビ・ヒメタニシ・ドジョウなどの在来種を入れ、全校児童にプレゼンし植物も紹介。ビオトープのルール作りを提案。生きものが棲める町。「ビオトープの役割は？なくてはならないもの。」みんなで作り上げたビオトープです。



前半の部5

板橋区立三園小学校「三園小学校の自然とビオトープ」

池と緑の委員会で作った野菜を地域のイベントで販売することができた。ビオトープは以前「ひょうたん池」、今は「カエル池」となっている。全校児童のアンケートから「バツ山・カエル池・校庭の自然」を大事にしていきたい。ドイツは校内暴力を無くすために、自然との共存に取り組んだ。三園小の良いところ、いじめや仲間はずれがないこと。ビオトープはたくさんの命を守っている。誇りに思う。



前半の部6

板橋区立緑小学校「新たなビオトープ～生き物のシェアハウス」

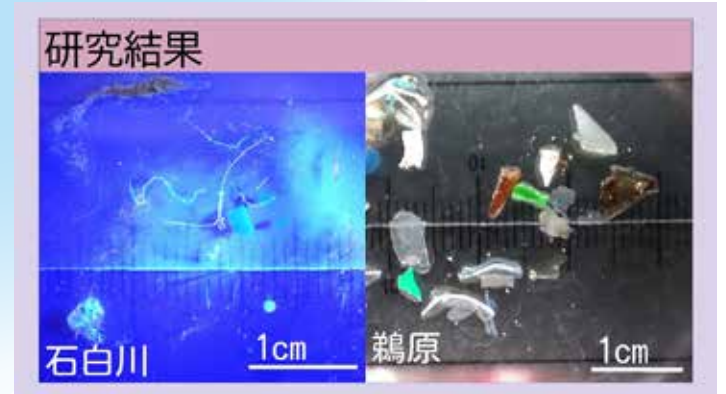
中台の緑と未来～地域の自然から、どんな生きものを守ったらよいか学ぶ。未来図を児童朝会で発表。コンクリート池づくり、ドジョウの隠れ家づくり。PTAレッツビオトープの活動。月1回で、保護者、児童、教員が観察。第二ビオトープづくりの計画。メダカ・ミナミヌマエビ・ヒメタニシ・ドジョウを保全。やって来た生きもの「産卵に来るカエル・セキレイ・ヒヨドリ・シジュウガラ・メジロ等」

後半の部1

新島村立式根島中学校「伊豆諸島の式根島からプラスチック問題を考える」

式根島には海水浴場が4つあり、学校や地域で定期的に清掃を実施。島外から沢山のゴミが運ばれてくるため、ゴミの量は減らない。式根島中学校では式根島と千葉県の海岸のプラゴミの量と質を比較。今年度は海水を調査し、沢山の糸状プラ

スチックを見つけ、合成繊維や発砲プラスチックが細かく分解されたものと推測。代替プラスチックとして島内の「明日葉」でハガキ作りに挑戦。取組を発信し、世界の活動とつながることが大切。



後半の部2

板橋区立高島第一中学校「命(食)の連鎖を考える畑活動」

ユネスコスクール加盟校特別支援学級の取り組み。今年、ピーマン・なす・わた・イエローポップ・チューリップを育てる。学校で育てた大豆でみそづくり。30cmのゴーヤ収穫。各学級に配った。ゴーヤ茶を作る。イエローポップでポップコーン。

サツマイモは20本、大きなものもとれて、スイートポテトにした。バナナ収穫。畑作業は、雑草抜き・水やり・土の掘り起こし・スコップで地盤を柔らかくする・畝づくり・マルチシート・ブロック運び・堆肥作り等。

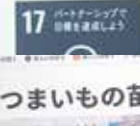


年育てた野菜について



まとめ

以上のことから学校で野菜を育て、育てた野菜の一部を給食に納品することをすべての学校で実施することで農業に興味を持つ人が増えれば、日本の食料自給率が上昇するかもしれないと思いました。



左からじゃがいも、さつまいも、キャベツです。

さつまいもの苗について



後半の部3

板橋区立西台中学校「校内における野菜の収穫について」

今年育てた野菜—ジャガイモ33個・サツマイモ11個・キャベツ33個。サツマイモの苗—斜めに植えた。無限ループ(育てた茎を切って植えるとまた育つ)間隔をあけると大きく育つ。サツマイモは3か月たつとすさまじいスピードで、光合成をし

て育つ。つるの成分はデンプン。給食に提供したときは、サツマイモみそ汁が出た。地産地消につながる。運搬の費用、CO2の削減、地域のつながりが良くなる。花壇の水はけが課題。

後半の部4

淑徳大学付属高等学校 生徒会 「淑徳高校の取り組み」



2. イオンタウンボードゲーム体験会

生徒会傘下組織—SDGsプラスとは。君が変われば世界が変わる。月に数回ミーティング。イオンタウンボードゲーム体験会。身の回りのSDGs達成に向けて自己成長していくゲームのカードを作る。サステナブル・ブランド国際会議学生招待プログラム第4回東日本大会に参加。自分を信じることで世界を変えることができるとエールを送る。YKKAPのグループワークに参加。「第二のふるさとづくりプロジェクト」in 秩父探求プログラム。100年持続するにはどうするか—特産品・本物の秩父に触れる・年間300日間祭りを開催・高齢者が多い—答えがないテーマ。#SASS2023に向けた動画制作。中高生に対する童話コンテスト。学校内では置き傘プロジェクトの取り組み。忘れ物が多く、忘れ物を減らす呼びかけポスターを作成。

後半の部5

淑徳大学 農業体験サークル 「農業体験サークル活動と環境活動との関連性」

自然を体験するサークル。ボランティア・野菜の育成(オクラ・枝豆)大学のベランダで。ボランティア体験—赤塚で、種イモ切りからジャガイモを植えるまで。環境問題との関連—野菜が暑さに耐えきれず枯れてしまった。環境への意思が向上した。次にやりたい活動—メダカのビオトープ設置。環境ポスター作製。農業ボランティア。課題—農業という文化を生かす。自然を体験し意識を広める。



参加団体へ表彰状を授与する宮地孝宜家政大准教授と板橋区環境政策課持田係長(受け取る淑徳大学 農業サークル代表)



後半の部6

東京家政大学 教育福祉学科宮地ゼミ有志 「環境教育教材としてのパネルシアターの制作と実践」

幼稚園・小学生を対象とした、社会教育活動。みそパネルシアター。登場人物—みそっそとずーちゃん。みそって何からできている?…大豆。大豆からできるものは?。味噌の作り方。

味噌を食べると体にいいことは?…お肌ツルツル、体の調子を整える、太りにくい、腸の調子が良くなる。幼児には歌でわかりやすく伝えた。次の学年は、やりたいことをやっていく。

発行

特定非営利活動法人 センスオブアース・市民による自然共生パンゲア

東京事務所 東京都板橋区前野町4-8-6 (〒174-0063) phone: 03-3960-6052 fax: 03-3960-6052
e-mail: info@npo-soe.jp url: npo-soe.jp